

優秀賞

中学生区分

兄への想い

名護市立屋部中学校 一年

中村 天架

私には、二才年上の中学三年生の兄がいます。わが家では、

定期的に父が身長や体重を測定し、グラフにして残してくれ

ていました。柱に刻まれた名前を見て、成長した証を家族み

んなで話をするのがとても楽しい時間でした。

ところが、忘れもしない五年生の夏。兄の身長を追い抜くと、

兄は耐えきれず泣き崩れてしまいました。その兄の側で、

「やったやった。にーにーに勝ったー。」

と、飛び跳ねて、喜んでいたのを今でもはっきりと覚えてい

ます。

私と兄は、父の影響を受けて幼少期からハンドボールを習

っています。大好きなハンドボールの練習日は、朝からずっと

楽しみです。

ある朝、ひざを押さえ泣いている兄の姿を見ました。私は

ある日の出来事です。

「こつちがお姉ちゃんで、こつちが弟ね。」

「いやいや、反対です。こつちが兄で、私が妹です。」

その瞬間、兄は悲しそうな顔をして母を見上げました。その

時、私は心の中でガツポーズ。兄に何でも勝つことが私の

喜びでした。

声もかけられず、それをただただ、見ているばかりでした。その日以来、兄の足はひんぱんに痛みだし、運動ができない日々が増えていきました。そんな状態が長く続く中、私も練習中にケガをしてしまいました。しばらく見学の日々が続きました。大好きなハンドボールはもちろん、体育の授業も休み時間も体を動かせない日々は私にとって苦しい時間でした。イライラが増していく私に母は優しく話してくれました。

「天ちゃん、今とつても辛いね。動けなくなるとストレスたまるよね。にーにーと同じだね。実はね。にーにー、リウマチって骨の病気になるってしまったさ。いつ治るのかもわからなくて、にーにも苦しんでいるよ。」

母から兄の病気の事を聞き、私は涙が止まりませんでした。考えてみると、兄は半年以上も動けない日々が続いていました。

私は二週間のケガでイライラして周りにあたってばかりで、兄の辛さを考えることもできず、情けない気持ちでいっぱいでした。

それから、すっかり私の足のケガは治り、ハンドボールにはげんでいると、沖縄選抜の話が舞い込んできました。兄も以前に選抜に選ばれ、沖縄代表として活躍しました。私も代表に選ばれたいたので、すぐに兄に相談しました。

「身長が高い人、パワーや速さもあつて自分より上手い人がたくさんいるけど、大事なのは、みんなと仲良くなることだよ。勝ち負けにこだわらないで、楽しくやった方がいいよ。いろんな人のプレー見ていろいろ聞いたり、教えてもらったりした方がいいよ。ライバルではあるけど、敵ではなくて、みんなハンドボールでつながる仲間だから。いっぱい話して、友達たくさんつ

くれよ。」

そう兄あにから、アドバイスあだばいすをもらいました。兄あにの言葉ことばが私わたしの胸むねに突き刺つさりました。いつも私わたしは勝かちたい思いおもいが先走さきばしり、どんな時ときでも張はり合あってばかりでした。勝かち負まけではなく、仲良なかよくなることが大事だいじ。それは、私わたしと兄あにとの関係かんけいを気きづかせてくれました。兄あには敵てきじゃない。仲間なかま、そして家族かぞくなんだ。改あらためて、兄あには大事だいじな存在そんざいだと気きづかされました。

時ときに、まだ足あしが痛いたむ兄あにですが、少すこしでも兄あにの役やくに立たちたいと今いまは思おもいます。兄あにの心こころの強つよさ。そして前向まえむきな言動げんどう。私わたしにたくさんの事ことを教おしえてくれました。そんな、兄あにを心こころから尊敬そんけいしていません。